

一般社団法人
日本航空宇宙工業会
常務理事

山北 和之

寸言



2019年パリエアショー出展を終えて

この6月、会員会社10社とともに2019年パリエアショーに出展して参りました。その活動やショーの詳細などについては本誌7月号に掲載されたとおりですが、SJACチームの代表として今回色々感じたことを、私が見聞きした範囲にはなりますが思いつくまま書き留めておきたいと思います。

まず、昨年ファーンボロで初めてデモフライトを披露した“MRJ”について、今回パリにおいて“Mitsubishi SpaceJet”とリブランドすることが発表されました。塗装も今回枯山水の石庭をイメージしたものにし会場内にも多くの垂れ幕が用意されて、SUBARU BELL 412EPX受注発表及びHondaJet ELITEの地上展示と合わせ日本ブランドの伸張を誇らしく感じさせる出来事でした。また、防衛省のP-1固定翼哨戒機とC-2輸送機も多くの注目を集めていましたが、クルーの皆さんが連日SJACブースに来て下さったことが筆者には大変有難く思われました。SJACアテンダントの皆さんも同じだったと思います。

会期3日目に開かれた“Japan Aerospace Workshop”では、SJAC出展企業10社と三菱航空機(株)によるプレゼンテーションを行いました。2013年に始められたということですから今回が7回目になりますが、2015年から参加している私の印象では明らかに内容が年々向上しています。もう一歩で、欧米ブースで時折見かけるものに近くように感じます。日本企業の存在感自体が増してきていることや関係者による事前の周知が十分あったことにもよると思いますが、冒頭では立ち見が出たほどであり、発表された若い皆さんの大きな自信につながったはずです。

エアショー会場で行われる高校生によるモデル

ロケット国際大会の支援も私たちには重要です。今年の日本代表は東京三田の普連士学園で、参加者の中で唯一女性のみで構成されており、華やかさがあつたためか他チームよりも多く注目されているように感じられました。彼女たちはアポロ宇宙飛行士やフィリッポ首相などの著名人たちと同じ場にあつて何を思われたでしょうか。米英仏高校生チームなどとのコミュニケーションを始めとして、この大会での経験が皆さんにとってかけがえのない思い出となってくれることを願っています。引率されました先生方、お疲れさまでした。そしてご支援くださいましたスポンサー企業の皆様、ありがとうございました。

サプライズだったことを一つ。JAXAとNASAのミーティングの機会をとらえ、面々にSJACブースをご視察いただきました。その際、NASAブライデンスタイン長官がアテンダントを制止して居並ぶ諸氏を前に航空機用エンジン系列図の解説を始められたので大変驚きました。長官が下院議員になれる前は海軍のパイロットであったことをその後知り、少し納得が進みはしましたが、米国社会の飾らない一面を垣間見た感じです。

最後に、今回のパリエアショー出展は各社様から大きなサポートを得て実現することができました。アテンダントの皆さんも長期間神経を使ったと思いますが、SJACとしてのチームワークを醸成できたと思います。各社の展示もそれぞれ工夫を凝らし、今回もリアルな手ごたえが得られたと聞いております。また、SJACブースに来られた多くの方々からの激励も励みになりました。関係の皆さん、本当にありがとうございました。